

道徳科通信



編集部だより

犬の散歩中のお話。散歩がきっかけで話ようになった小学2年生のYちゃん。夏休みの自由研究のテーマは、犬。我が家の犬も研究対象となり、「どんな言葉がわかりますか」「どんなことができますか」という質問にお答えした。後日、研究の進み具合を尋ねると、20数頭について調べたとのこと。親や学校の先生とは違う地域の人とコミュニケーションを取り、関心あることに主体的に取り組む姿が頼もしい。お母様に、「キャリア・パスポート」について伺ってみた。Yちゃんのそれには、「□□ができる」という複数の質問全てに、○が付いているとはほ笑んでいらした。自分自身を認める自己肯定感は、キャリア教育にも道徳教育にも通ずる重要な要素だ。社会構造の変化、さまざまなストレスがある中で、Yちゃんをはじめ今の子どもたちが、自己肯定感をもって、自分の持ち味を大切に伸ばしていけるよう、大人社会が子どもの学びの場や可能性を狭めないようにしたい。

Webコンテンツ

「わたしたちの校歌」を公開！

小学校道徳4年の教材「13 わたしたちの校歌」では、事例を踏まえて、自分たちの学校の校歌について調べるという学習を想定しています。自分たちの学校の校歌に「どんな思いがこめられているか」、校歌の中の「好きな言葉は何か」について考える——つまり、100校あれば100通りの学習材と実践が存在する教材です。

Webコンテンツ「わたしたちの校歌」では、全国の小学校で行われた授業の様子とともに、子どもたちが考えた「校歌にこめられた思い」を随時アップしていく予定です。ぜひご覧ください。



「13 わたしたちの校歌」(小学校道徳4年p.70-71)

アクセスはこちらから



小・中・高等学校教科書 訂正のお知らせ

教科書の訂正箇所をウェブサイトに掲載しております。まことに恐れ入りますが、ご確認のうえ、ご指導の際にはご留意くださいますようお願い申し上げます。



光村図書LINE
公式アカウント
友だち募集中！



光村図書

道徳科通信 No.4 2022年11月11日発行

発行人 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン 鷹舘麻衣子 イラスト カトウミナエ／霜田あゆ美 印刷所 協和オフセット印刷株式会社

●個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

【教育情報誌に関するお問い合わせ先】 住所変更・配送停止：ej1@mitsumura-tosho.co.jp ご意見・ご感想：koho@mitsumura-tosho.co.jp

特集

道徳科とキャリア教育

〈インタビュー〉

南極で得たものは
渡貫淳子

〈対談〉

「振り返り」で、学びをつなぐ
長田 徹・安井政樹

連載

知って役立つ発達心理学④ ……7
渡辺弥生

わたしの授業レポート ……8

「黄金の魚」(小3) 濱島 功・新川 靖

「ソーシャル・ビュー

——見えない人と楽しむ美術鑑賞」(中3) 中村迪子・荒木寿友

道徳授業で哲学鍋を④ ……12

苫野一徳

特集

道徳科と キャリア教育

キャリア教育とは、「将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力」を育むための教育活動です。これまでに、学校教育の中では、キャリア教育を推進するためのさまざまな施策が展開されてきました。

自分の在り方や生き方を見つめる道徳科とキャリア教育を結び付けることで、より豊かな学びが生み出せるのではないのでしょうか。その考え方と実践のヒントを特集します。



【インタビュー】

南極で得たものは

渡貫淳子（第57次南極地域観測隊 調理隊員）

Junko Watanuki

調理の分野でキャリアを積み、調理隊員として南極地域観測隊に参加した渡貫淳子さん。南極に行くまでのことや南極で経験したこと、これからの仕事についてお聞きしました。



——南極地域観測隊の調理隊員の仕事とは、どのような仕事ですか。

1年間を南極で過ごす約30名の観測隊員の食事を、調理隊員2名で交代で作ります。南極にはコンビニなどありませんから、隊員は1年間、私たち調理隊員が作ったものしか口にできません。日本にいますときと変わらない食事を出しますが、南極では生活の自由度そのものが低いので、「食」への期待は高いと思います。仕事の途中でその日のメニューを確認しにくる隊員もいました。食事を楽しみにしてくれていたようで、料理人としては、それはやりがいや喜びになりましたね。——そもそも、なぜ観測隊の調理隊員になろうと思ったのですか。

きっかけは『南極料理人』*という映画を見たことです。映画の食事風景を見て、直感的に「ここで、この人たちの食事を作りたい」と思いました。その後は自分でも驚くくらいの熱量で、観測隊の経験者に話を聞いたり、本を読んだり。30歳を過ぎて、こんなに夢中になれることがあるとは、思いもしませんでした。——とはいえ、観測隊の調理隊員というのは特殊な仕事ですよね。不安はなかったのでしょうか。

もちろん、調理隊員の仕事についてはわからないことのほうが多かったのですが、これまでの料理人としての経験と照らし合わせたら、「できるだろう」と思いました。ただ、観測隊として南極に行くとなれば、家族とは1年以上離れ離れです。そういった迷いはありましたが、「悩んでいてもしょうがない。とにかく観測隊の試験を受けよう」と決心しました。1回目の受験は書類選考で、2回目は面接で不合格。そのたびに「何がダメだったのだろう」と落ち込みましたが、途中で諦めたら、その後の人生を楽しくやっていける自信がなくて……。3回目

でやっと合格しました。

——調理隊員の仕事に備えて、何か準備したことはありましたか。

自分には「早く作る」という経験が足りないと思ったので、お客さんの回転が速い居酒屋でアルバイトをしました。手早く確実に作るには、これまでとはまったく違うスキルが必要だと思ったんです。——それまでのキャリアを通して培ったことで、南極で役立ったスキルなどはありましたか。

特別なことではありませんが、例えば「決まった時間に登校する」こともスキルですよ。実は、毎日続けていることが、結果的に自分の生活の在り方につながる。何気なく行っている小さなことも、将来のためには無駄じゃないと思います。

あとは、相手のことをいかに考えられるか。これもあたりまえだけど大切だと思いました。観測隊の平均年齢は40歳ですが、「トイレットペーパーを使い切ったまま、補充をしない人がいる」といった些細な気遣い不足が、ミーティングの議題になるんです。子どもみたいでしょ？ 観測隊はたった30人の小さな社会なので、人間関係のストレスはあります。でも、それがなかったら、おもしろくなかったかもしれません。人間関係の中で自分がどんな人間かに気づいたり、相手に対して何ができるかと考えたり。人間関係に悩んだけれど、人間関係に救われもしました。

——南極に行って得たものはありますか。

多少のことには動じなくなりましたね。マイナス30度の中、寝袋で寝るという経験をすると、もう怖いものはないというか……。何かを経験することは、自信をもつことにつながると思います。

また、違う業種の仕事を間近に見ることができたのも貴重な体験でした。ある日、突然、発電機の警報が鳴ったんです。

南極では発電機のトラブルは死活問題。入浴中だった発電機の担当者が、びしょ濡れのまま上着だけ着て対応に当たっているのを見て、電気の安定供給がいかに難しいことかはもちろん、自分の生活が誰かに支えられているということも、改めて意識しました。

——南極での経験は、帰国後の仕事にどうつながっているのでしょうか。

南極では、年に1度しか食材の補充ができませんから、いかに食材を無駄にしないかを常に考えてきました。それに関連して、フードロスについての講演が増えてきています。

また、講演会後に声をかけてくださった70代の女性が「20代の頃、研究者として南極に行きたかったけれど、時代がそれを許さなかった。だから、今あなたが南極に行って、いろいろな経験をされたことがすごくうらやましいし、誇りに思う」とおっしゃったんです。かつて涙をのんだ方がいたから、そこに議論が生まれ、女性である私が南極に行ける時代になった。今後は、私がそういったことを発信していく必要があるのかなと思っています。



渡貫淳子
わたぬきじゅんこ

1973年青森県生まれ。調理師。エコール辻東京を卒業後、同校の日本料理技術職員に。出産後、家事・育児をしながら調理師としてキャリアを積む。2015年、母親としては初の調理隊員として第57次南極地域観測隊に参加。帰国後は食品メーカーで商品開発に携わりながら、講演会など活動の場を広げる。

*『南極料理人』南極地域観測隊に料理人として参加した、西村淳のエッセイ『面白南極料理人』（新潮社）を原作とした映画。おいしいような料理とともに、南極で単身赴任生活を送る8人の姿を描く。2009年公開。

【対談】

「振り返り」で、学びをつなぐ

キャリア教育の専門家、長田徹先生（文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官）と、長く小学校で道徳科の授業を実践されてきた安井政樹先生（札幌国際大学 准教授）に、キャリア教育と道徳科の学びで重要となる「振り返り」や、学びを自分の将来や生活につなぐことについて、語っていただきました。

撮影：所 直輝

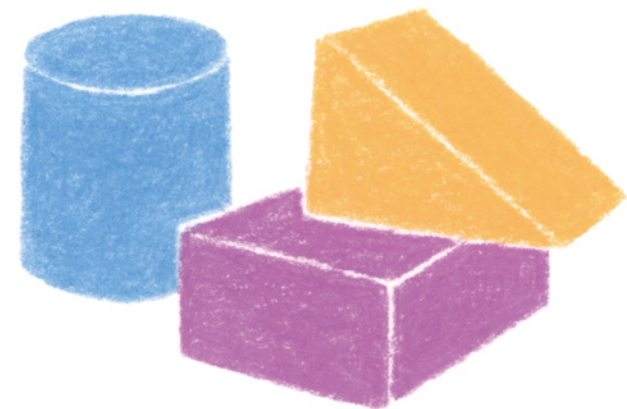


長田 徹 ●おさだ とおる

文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官。国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官。宮城県・仙台市の公立学校教諭、仙台市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事、同確かな学力育成室指導主事として学力向上、キャリア教育を担当。2013年4月より現職。現職では、キャリア教育(進路指導)や特別活動を担当。

安井 政樹 ●やすい まさき

札幌国際大学 准教授。北海道・札幌市の小学校教諭を経て、2022年4月より現職。ICT活用や道徳教育、インクルーシブ教育の中でも、GIGAスクール環境を生かした学び、個別最適な学びと協働的な学び、ICTを活用した働き方改革などを中心に研究を進めている。学校教育雑誌での連載、NHK for School道徳番組の監修等も手がける。



キャリア教育の課題、道徳科の課題

長田 現行の学習指導要領を検討していた中教審で、国際的な意識調査において日本の高校生の自己肯定感や社会参画意識が極端に低いことが話題となりました（右図）。先進国にありがちな傾向かとも思いましたが、他の先進国の子どもたちの自己肯定感や社会参画意識は高い。これは、日本にだけ見られる課題です。

安井 4月から大学で教えています。意欲的な学生もいれば、自分に自信のない学生、自分の可能性や課題が見えていない学生もいると感じます。でも、本人のせいというよりは、これまでの人生の中で、そういうことを見いだす機会が少なかったのかなという印象です。

長田 自己肯定感や社会参画意識の低さという課題があって、現行の学習指導要領の「前文」には、「児童生徒が、自分のよさや可能性を認識する」という文言が記されました。どうしたら日本の子どもたちが自分のよさや可能性を認識できるかを、教師が意識するようというメッセージです。キャリア教育に限らず、日本の教育全体が追いかけていかなければならない共通のテーマといえます。

安井 「前文」に記されているということに、強い意志を感じますね。

長田 ええ。また、キャリア教育においては、学校教育の中で行ってきたキャリアについての学びが、自分が将来どう生きるかと結び付いていない。そもそも、学びが自分の将来に結び付くという意識が低いという課題もあります。

安井 道徳科も似たようなところがあります。例えば「礼儀」については、小・中学校の道徳科で考える機会があったはずですが、でも、そういうことを学んできたはずの大学生に、いまだに「挨拶をしよう」と声をかけることもある。「挨拶は大事」と理解するだけでなく、自分の生き方とつなげられるようにしないといけないと実感しています。

何のために、振り返るのか

安井 学んだことを自分の生き方や将来とつなげるためには「振り返り」が重要だと思うのですが、長田先生はどうお考えですか。

長田 学習指導要領では、「振り返る」と「見通す」がセットになっています。なぜ振り返るのかというと、それは確かな根拠をもって、この後の見通しを立てるためです。「自分にはこういうよさや力がある。こういう課題がある。だから、こうなりたい」という見通しを立てるためには、確かな振り返りが必要なんです。

安井 メタ認知ですよ。今の自分がどういう状態なのかがわかって、初めて地に足がつく。自分で今の学びの現在地がわかるようにすることが大切だと思います。その点からいうと、中学校の道徳教科書の巻末にある「学びの記録」（次ページ参照）は、とてもいいですね。

長田 考えたことを蓄積し、一覧で見渡す。これは、自己評価のトレーニングです。これまで、学校での評価は先生からされる評価が中心になりがちでした。日本の子どもたちの自己肯定感や社会参画意識の低さは、これまでの学習評価の在り方に、何らかの原因があったからじゃないか



と思うんです。

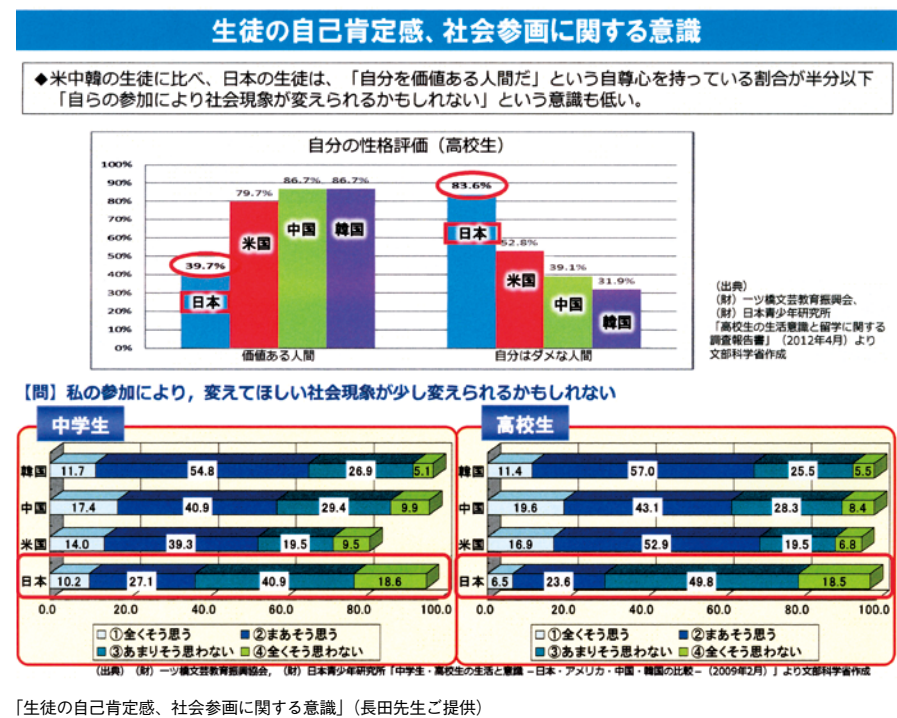
安井 これからは、先生からの評価だけでなく、子どもたちが自ら見通しをもち、学習意欲を高めて、主体的に学ぶために役立つ自己評価も大切だということですよ。

長田 自己評価のトレーニングを積み重ねていくと、自分で自分を励ましたり、叱ったりすることのできる大人になっていくと思います。

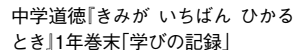
安井 そうですね。ただ、時に道徳科での振り返りは、「主人公のここがすばらしかった」といった、教材の中身に終始してしまうケースがあります。このような振り返りだけでなく、自己評価のトレーニングにはなりませんよね。「似た経験があったときにどうしたいか」「今までの自分と照らし合わせたらどうか」というところまで振り返ることができるようにする必要があると思います。

振り返る視点を育てる

安井 道徳が教科になったばかりの頃、『「親切」とは、どういうことか』といった、内容項目そのものについての教師向けの研修も多くありました。それらも必要ですが、道徳科では、



「生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識」（長田先生ご提供）



安井 教材に向き合うときに、自分とのつながりを意識できるようにすることだと思います。「思いやりが

長田 自分の考えの根底にあるもの

安井 キャリア教育でも振り返りを
しますよね。どんな工夫が考えられ

安井 断片をつなげて見せるという
のは、道徳科の「大きくくりなまとま

安井 実は学校現場では、学びを振り返る時間が、年間指導計画にきちんと位置づけられていないこともあるんです。教育課程において振り返りが重要な意味をもつ時代が来ているなら、1時間丸ごと振り返りの時間としてもよいのではと感じました。振り返ること自体が学びだということもできるのではないのでしょうか。

長田 安井先生のおっしゃるとおり
で、文部科学省でも「キャリア・パ



「学びが、実は自分が将来生きていくことに
つながっている」ということを自覚できるように。

——長田



スポーツ」の例は示しましたが、それはあくまで「例示」。内容や様式の指定はないので、各学校で使ってきた作文用紙やシートを活用していただいていいんです。例えば、その学校の様式で年度初めに書く目標シート1枚、年度末の振り返りシート1枚、その他、行事などで書いた感想シートの中から子ども自身が2枚、先生が1枚選ぶ。そうやって1年間で5枚のシートをためていくだけで、小・中学校の9年間で45ページもの「キャリア・パスポート」になります。

安井 小学校1年生のときのものと、6年生のときのものを見比べたら、自分が成長していることが、ひと目でわかりますよね。たとえ、字が間違っていたとしても、それも含めて自分の成長を実感できそうです。

長田 「キャリア・パスポート」は、自分で自分のよさや可能性を認識するための道具です。誰かに評価してもらうものではないので、わざわざきれいに書いたり、新たに書いたりする必要はありません。すでにあるものを活用してもらえたらと思います。

安井 中学校の教科書の「学びの記録」を切り取って、そのまま「キャリア・パスポート」に挟んでもいいですね。

わたち 轍となつてつながる

長田 「キャリア」の語源はラテン語で、「轍」という意味です。だから、キャリア教育の本質は、学校での学びが、轍となって自分の将来につながっていくことを意識して指導しようということなんです。

安井 小・中学校の道徳科では「勤労」について考えますが、内容項目の「勤労」＝「キャリア教育」と捉えるだけでは、考え方が狭くなりそうです

ね。

長田 はい。「勤労」について考えることが、キャリア教育の一部になりうることには間違いはありませんが、もっと広く捉える必要があると思います。実際に、教科書の中にはキャリア教育に関わる教材がたくさんありますし、道徳科を中心としてキャリア教育を進めようと研究している学校もありますよ。

安井 教師が、道徳科の中に点在するキャリア教育の要素をつなげて捉えようという意識をもつことが大切なのかなと思いました。でも、こういうことを考えれば考えるほど、そういう自分はちゃんとできているのだろうか、心がきゅーっとなりますね。

長田 私も、もともとは中学校の教員でしたから、安井先生とお話をして、「あのときの道徳の授業、ああしていたらよかったなあ」と、反省するところもありました。

安井 長田先生とお話をして、私も改めて「こういう教育をしたい」という気持ちが湧いてきました。今回は、子どものキャリア教育の話をしてきましたが、実は、大人も自分自身のキャリア教育の真っただ中にいるのかもしれないね。



道徳授業を成功させよう

知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第④回 人はなぜ、時に望ましくない行動を取ってしまうのか

「いじめはよくない」という規範意識は、小学生でももっています。ですが、実際には、クラスの中でいじめが起きていることは少なくありません。その原因は一つではありませんが、子どもたちが自分を律することが難しいことにあります。

自分を律する力を弱めてしまうメカニズム

人には、自分に「非」があると考えるのを回避しようとするところがあります。自分の落ち度を最小限にしようとするのです。

この原因として、四つのメカニズムがあると考えられています。下の図を参照ください。

①は、望ましくない行為を引き起こす「行為の再解釈にかかわるメカニズム」です。例えば、「平和のために戦おう」「未来のために戦おう」という表現は、「道徳的正当化」に当たります。戦争を煽るリーダーは「人を殺めに行こう」とは決して言いません。民が心地よいと感じる言葉を巧みに用いるのです。

「リストラ」を「適正規模化」という婉曲的な言葉に置き換えたり（婉曲な名称づけ）、政治家が悪政を行った人を引き合いに出して比較し、自分を正当化すること（緩和的比較）も、自分の行為の再解釈です。

②は、望ましくない行為や有害な結果をもたらすことにつながる「行為と結果の因果作用の曖昧化にかかわるメカニズム」です。「赤信号 みんなで渡れば怖くない」（責任の拡散）という意識や、親自身の問題を子どものせいにする（責任の転嫁）などがそれに当た

ります。

③は、有害な結果をもたらすことにつながる「結果の無視にかかわるメカニズム」です。例えば、便宜供与した政治家が、具体的な計画や実行は秘書などに任せるといった場合、政治家本人は実際に行動していないことから、比較的、結果を無視することができ、罪悪感も弱くなります。

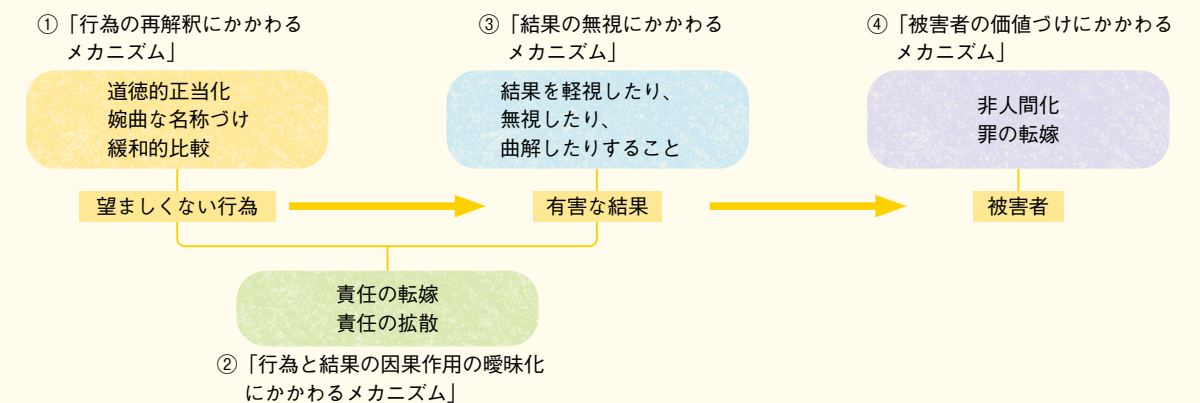
④は、「被害者の価値づけにかかわるメカニズム」です。相手を自分と対等な存在、同じ気持ちや価値観をもつ存在として位置づけなかったり（非人間化）、自分が悪いのにもかかわらず、相手に原因を求めたりすること（罪の転嫁）をいいます。

人には、こうした自分を律する機能を弱めてしまう働きがあることを、まずは理解しましょう。そのうえで、自分や他人がそうした行動に陥っていないかを判断する目をもつことが必要です。

ただし、このような道徳的な判断や行動のコントロールは、大人でも難しいことです。ですから、ここで紹介したような事例を取り上げ、子どもたちに「あ、よくやっちゃっているな」「自分が正しいと思っていただけ、間違いだ」と気づかせることが大切です。

渡辺弥生 ●わたなべ やよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体——発達心理学で気持ちをマネジメントする』（筑摩書房）、「子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学」（光文社）など。監修に『まんがでわかる発達心理学』（講談社）など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。



「黄金の魚」

出典：光村図書「どうとく3 きみが いちばん ひかるとき」

学年 3年 内容項目 A (3) 節度、節制

神奈川県小田原市立芦子小学校 教頭

濱島 功

ねらい 節度のある生活のよさを考え、節制しようとする気持ちを育む。

わたしの授業、ポイントはココ！

「道徳見つけ」から問いをもつ

「子どもと創る道徳授業」を目ざす中で、特に子どもが「自ら問いをもつ」にはどうすればよいのかについて、日々模索しています。いろいろな方法を試してきましたが、現在のところ、「子どもたち自身で教材から道徳を発見する学習方法」が効果的だと考えています。私は、それを「道徳見つけ」とよんでいます。

具体的には、まず、教材を読んで、各自で、自分の心が動いたと思うところを見つけます。その後、ペアトークを行い、全体でも共有する時間を設けます。教師が「どうしてそう思ったの？」と聞き返すことによって、子どもたちの

感じた「道徳」を引き出すことができます。このような手続きを経て、発問につなげることで、発問に対する子どもの思考が深くなります。「道徳見つけ」がベースとなり、子どもが問いを生み出すことができるのです。

発問に選択肢を設ける

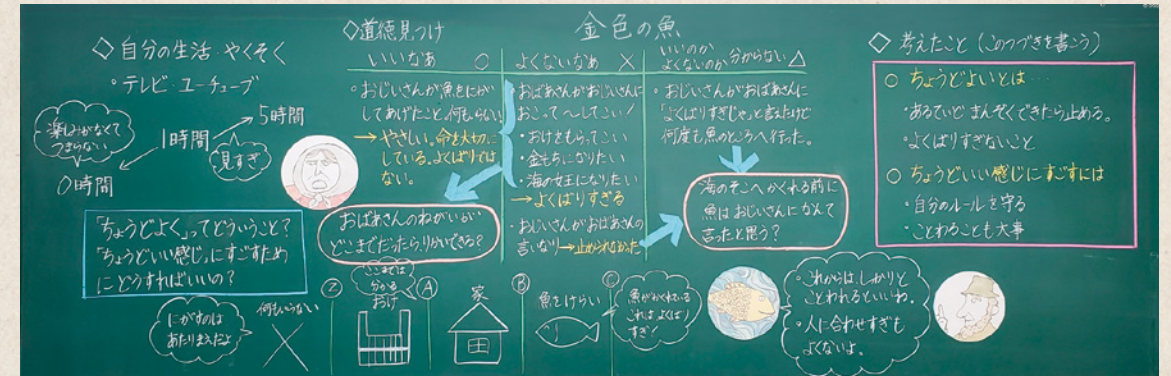
学習過程に子どもが「選択できる」場面を設けることを意識しています。選択肢のある発問をすることによって、児童は参加しやすくなり、「考え・議論する」ことにつなげることができます。

濱島先生の授業、ココに注目！

主体的な学びの実現に向けて、道徳科の授業や教材を「自分ごと」にすることは、とても重要です。本実践では、教材から感じたことを教科書に書き込むことで、本時の学習への問題意識を高めておられます。また、選択肢のある発問は対話的な学びの実現へとつながります。多くの先生方から、「意見の交流はできても、議論になかなかならない」という声も聞かれます。議論を生み出すには「論点」が重要です。「選択肢」は選択の理由も含めて、友達との差異が明確になりやすく、議論を生み出す工夫として有効です。

関西福祉大学 教授
しんかわ やすし
新川 靖

教材の内容(あらすじ) おじいさんは海で釣り上げた黄金の魚に、どんな願いでもかなえるから助けてほしいと言われる。おじいさんは何も望まずに魚を助けるが、話を聞いたおばあさんは、魚に願いをかなえてもらうようおじいさんに言う。おばあさんは願いがかなってぜいたくな暮らしができるようになって、次々に新しい願い事をしたので、魚は願いをかなえることをやめ、おばあさんの暮らしも元に戻る。



学習活動 (▶補助発問や問い返し、●児童の反応)

指導の工夫

1

「節度、節制」について自分の生活を振り返り、問題意識をもつ

発問 普段の生活で、家の人とどんな約束をしていますか。

●YouTubeを見ることができる時間が1時間までというのが、お母さんとの約束だけど、ついつい5時間ぐらい見てしまった。でも、代わりにゲームができる時間が「0」になってしまうと、つまらない。

▶やりすぎは、よくないよね。でも、楽しみを設けず過ごすのもつまらないね。では、「ちょうどよい・ほどよい」感じってどういうことなんだろうね。教科書の内容を通して考えてみよう。

教材の内容項目・教師のねらい・児童の実態を踏まえた話題提供をし、日頃の自分の生活を振り返る場面を設定した。

2

「黄金の魚」を読んで、話し合う

発問 今からお話を読みます。自分の心が動いたなと思うところに線を引きましょう。いいなと思ったら、線を引いてその横に○を、よくないなと思ったら×を付けます。よいのか、よくないのかわからない場合には△を付けましょう。

●×おばあさんが、「金持ちになりたい・海の女王になりたい」と言って、欲張っている。
●△おじいさんがおばあさんの言いなりになっている。

中心的な発問 おばあさんの願いはどこまでだったら理解できますか。

A. おけ、B. 立派な家・金持ち、C. 海の女王・黄金の魚を家来、Z. その他 (何ももらわない・仕事の紹介)

●立派な家はもらいすぎだよ。何か仕事を紹介してもらうくらいがちょうどいい。
●家をもらうまでだったらいいんじゃないかな。だって、黄金の魚も受け入れているから。

「道徳見つけ」を通して、自分の経験を踏まえながら語らせるとともに、「子どもからの問い」を引き出せるように板書して、内容を整理する。「道徳見つけ」から、本時で扱う内容項目に関する問いが、自然と子どもたちから引き出せるようにした。

「道徳見つけ」を基にして、選択的発問を提示した。この問いは、誰もが参加でき、議論もしやすくなる。また、私が3択ほど提示し、さらに子どもからも選択肢(Z.その他)を募り、話し合いを行った。

3

話し合ったことを基に、自分の生活を再度見つめる

発問 「ちょうどよいとは……」「ちょうどいい感じに過ごすには……」の続きを書き、わかったこと・考えたことをまとめましょう。

●ちょうどよいとは、ある程度満足できたらそこでやめること。
●ちょうどいい感じに過ごすには、自分のルールを守ろうとする気持ちをもつとよい。

おじいさんは「節度」はあるが、押しに弱いのか、おばあさんに強く言われると聞いてしまう。おじいさんの言動についても検討することによって「節制」についても考えられる授業展開をねらった。

本時は「価値理解」を重視した授業にしたため、道徳的価値のよさや大切さを確認できるよう、導入で提示した視点に基づいて振り返りをした。

※「道徳見つけ」の実践は、丸岡慎弥先生(立命館小学校)の実践を参考にしました。

「ソーシャル・ビュー——見えない人と楽しむ美術鑑賞」

出典：光村図書「中学道徳3 きみがいちばん ひかるとき」

学年 3年 内容項目 B（9）相互理解、寛容

山口県周南市立富田中学校 教諭

中村迪子

ねらい 多様な人と関わることの意義について考えることを通して、他者の見方を知ると同時に自分についても客観的に見つめることができることに気づき、多くの人と積極的に関わっていかうとする道徳的実践意欲を培う。

わたしの授業、ポイントはココ！

自分へも視点を向ける

3年生の大切な時期、自分を見つめ、これからの生き方について思いをはせてほしいと考えました。

本教材の内容項目は、「相互理解、寛容」です。**相互理解**という、**相手を理解することに目を向けがちですが、自分を理解することが前提としてある**と思います。そして、より豊かな人生を送るために、自分にはないものを他者から学ぼうとする姿勢が大切だと思います。そこで、他者だけでなく、自分を客観的に見つめることの大切さに気づけるよう展開を考えました。

「楽しさ」と「難しさ」の両面を見つめる

冒頭で、教材の共通理解を深めるために疑似体験の場を設定しました。何気ないやり取りの中で、自分と他者のものの見方や捉え方の違いに気づくことができ、ねらいに迫ることができると考えたためです。その後、中心的な発問をすることで、**人との関わりに「楽しさ」と「難しさ」があること、他者との違いに気づくこと、視野が広がることなど、相手理解のみにとどまらない意見**が出ました。最後に教材の後段を範読し、他者との関わりの中で、自分にはないものを取り入れることのよさを確認しました。

中村先生の授業、ココに注目！

実際に「ソーシャル・ビュー」を生徒が体験する実践、非常におもしろいです。この教材の醍醐味は、「ソーシャル・ビュー」を通じて、一人一人の違いが生きる社会を実現していくにはどうすればいいかを考える点にあります。中村先生の実践は、「相互理解、寛容」という価値について、他者との対話の中で「さまざまな人と関わる意義」を深めていっているといえます。終末で本文を最後まで読んでいますが、筆者の主張を知ったうえで、他者とともに生きていく社会の実現について考えたほうが、より深まったのではないのでしょうか。

立命館大学大学院 教授

荒木寿友

教材の内容(あらすじ) 全盲の白鳥建二さんは、目の見える人と対話をしながら絵画を鑑賞する方法を考え出した。著者の伊藤亜紗さんは、この方法を「ソーシャル・ビュー」と名付けた。目の見えない人の問いに答え、試行錯誤しながら伝え合うことで、作品解釈がより豊かになる。「助けてあげなきゃ」ではなく、「いっしょにする」ことが大事なのだ。共同で何かをするとき、「一人一人の違い」が生かされる。

「ソーシャル・ビュー」を体験的に味わう

発問 「ソーシャル・ビュー」を体験しましょう。

- ①教師が教科書の記述を基に、「ソーシャル・ビュー」のやり方を説明する。この時点で、筆者の考えが書かれた後段は読まないでよく。
- ②4人でグループを作り、そのうち1名を「見えない人」、他3名を「見える人」の設定とした。「タンギー爺さんの肖像」（ゴッホ 作）を巡る活動とし、役割の入れ替えなどは行わず、5分程度の活動とした。
- ③「ソーシャル・ビュー」を体験した感想を、グループ内で話し合わせた。
 - 情報を伝える順番やたとえ方が難しい。（見える人役）
 - 形を伝えても、相手がイメージできているかわからないところが難しい。（見える人役）
 - 想像することの楽しさが味わえる。（見えない人役）
 - 常に「どんな？」という疑問がついて回る。（見えない人役）

考えよう（考えるテーマ）：他者と関わっていくことの意義を考えよう。

学習課題について、小集団や全体での話し合いを通して考える

中心的な発問 社会には、視覚障害者に限らず、さまざまな人がいます。さまざまな人と関わることの意義は何でしょうか。（個人→小集団→全体で考える）

- 見えない人の役をしたことで、初めて言葉から想像する経験ができた。いろいろな感じ方、考え方があるのだと思った。
- 同じ見える人役でも、いろいろな感じ方があるのだと実感できた。新しい見方や考え方に触れることができし、視野が広がる。
- 相手が「ああ、何となくわかった」と言ってくれた。共感できたとき、うれしいと感じた。
- 言葉が頼りだったので、どうすれば伝わるかをいろいろと考えた。コミュニケーションを取ることは楽しい。
- 自分と他者の価値観の違いに気づくことができる。

▶他者との違いに気づくのは、楽しさばかりですか。難しさも感じませんか。

- 他者の考えを知り、楽しさも増えるけれど、考え方や情報を共有する難しさが増えると思った。それを乗り越えることが大切。
- 違いがあると、わかり合うことに難しさを感じるけれど、その難しさがあるから、もっと深く、自分のことも人のことも知ろうと思える。
- 人との違いに気づくためには、自分をしっかり見つめていなければならない。自分を見つめることと、人と関わることはつながっている。
- いろいろな人と関われば関わるほど、自分のことも知ることができる。

単に「見える人による解説」でないことを伝える。教師が各グループを回り、「その言い方で伝わるかな」「『青』ってどんな青？」など、生徒が対話的に言葉を交わし合えるよう、適宜助言を行った。

やり取りのしやすさを考えて、著名な絵を対象としたが、双方に絵のイメージがある程度共有されていたので、醍醐味に欠けたと感じた。双方が見たことのない絵を対象にしたほうが、効果的であったかもしれない。

上記の体験で、見える人の役どうしても、表現やイメージのもち方に違いがあったことを想起させ、一人一人に違いがあることを確認する。

個人でワークシートに書かせた後、「ソーシャル・ビュー」を体験したグループの単位で話し合わせた。グループで出た意見は、代表者が全体に報告する形とした。報告の際には、出た意見をなるべく全て報告させ、板書上で類似の考えなどを関連づけながら全体で共有した。

よい面しか発言しない生徒に、もう一歩踏み込んで考えさせたいと思った。「楽しさ」だけではなく、「難しさ」の先に何があるのか、「難しさ」の積極的な意味を考えさせたいと考えた。

本時の振り返りをする

発問 ワークシートに今日の授業の振り返りを書きましょう。

- 例えば、足が速いことは、自分だけではわからない。人と比べてわかる。違いがあるから、それぞれが自分のことを知ることにつながる。

教材の後段を範読し、さまざまな人の存在こそが、自分自身を見つめさせ、人生を豊かなものにしてくれることについて考えを深める。

考えたことを自分の体験等に結び付けて、振り返らせる。

道徳授業で 哲学鍋を

苫野一徳

Ittoku Tomano
(熊本大学大学院准教授)

「学び」って、何だろう？

子どもたちと定期的に続けている「本質観取」。今回のテーマは、「学び」とは何か？

私たちは、いったい何をもって「これは学びだなあ」と感じるのだろうか？そんな本質を探り出す哲学対話の始まりです。

「学び」の本質がわかると、 どんないいことがあるだろう？

苫野 それじゃあいつものように、「学び」の本質がわかると、どんないいことがありそうか、皆さんの考えを聞かせてくれますか？

とし（高1） しばらく受験勉強をしていたんですけど、ただ点を取るだけの勉強って感じで、これは「学び」なのかなあと思っていました。学校でやっている勉強は本当に「学び」と言えるのか、考えたいと思います。

ようた（中3） 僕は英語が得意なんですけど、学校の授業ではもの足りなくて、これって、自分に合った「学び」になってるのかなあと思っています。

苫野 なるほど。学校での学びは本当に学びと言えるのか。もし言えない部分があるとすれば、どうすれば「学び」にすることができるのか。今回は、そんなことを頭の片隅に置きながら本質観取ができるといいかもしれないね。

これは「学びだ！」と言える 事例を挙げていこう

苫野 じゃあ続いて、これは「学び」と言えるぞっていう事例をたくさん挙げていこうか。いろんな事例を通して、「学び」に共通するキーワードが見えてくるはず。

にき（中1） 「学び」って、2種類あると思うんです。一つは、知らなかったことを知れること。もう一つは、失敗から学ぶこと。

苫野 なるほど、確かに僕たちは「失敗から学ぶ」っていうよな～。

かなこ（中2） 化学式とか漢字をテストのために覚えている時は学んでるって感じがしないんですけど、興味のある英語の文章を読みながら、どうしてここに「a」とか「the」がつくのかなとか、自分で考えている時は学んでる感じがします。

ようた 確かに、学びは自発的なものだよね。僕は石が好きなんですけど、川で拾った石の名前を調べます。でもすぐ忘れる。何回も調べて覚えるプロセスは学びだなあって思います。

とし 自発性がないと「学び」じゃなくて「勉強」って感じだよな。でも一方で、道を歩いている時に新しいレストランとかを自発的に発見しても、ただそれだけじゃ「学び」とは言えないような気がします。

にき 確かに。自分にとってどうでもいいことを発見しても、それは「学び」とは言わない。「学び」には、自分から求めていく感じがあるんじゃないかな。能動性っていうか。

キーワードを見つけていこう！

苫野 「自発性」や「能動性」など、すでにいろんなキーワードが出てきたけど、ここからは「学び」に共通する本質的なキーワードをもう少し見つけていこうか。

たいすけ（中1） 僕は、「学び」は「生活に役に立つこと」っていう感じがします。それに対して「勉強」は、テストのためとかもっと狭い感じ。

ようた 僕は、古文とか漢文が好きで、読んでいると「学んでるな」って感じがあるんですけど、生活に役に立つかっていうと役に立たない気がします（笑）。

たいすけ 生活とか仕事に役に立たなくても、雑談の時に役に立つとかはありますか？

ようた なるほど～。でも特にそういうことを意識して学んでいるわけでもないんだよな～（笑）。

苫野 おもしろいね。じゃあようた君は何をもって古文や漢文を「学んでいる」って感じるんだろう？

ようた 純粋におもしろいんですよ。

苫野 なるほど。「おもしろい」ね。
とし 聞いてて思ったんですけど、「生活に役に立つ」っていうのを、「生活が豊かになる」って言い換えてみたらどうですか？

全員 おお～。それは言えてる！

とし 僕は、生活には役に立たないけど、歴史の番組が好きです。気になることがあって見ているから、すごくおもしろい。でも、弟は全くおもしろくないと言う。これって、自分の中に「どうしてあんなことが起きたのかな」という問いがあるからじゃないかな。

にき すごく納得感があります。学ぶ時って、そもそも自分の中に問いがあると思うんです。でも学校の勉強は、自分が「なんでだろう」とかいう問いをもつ前に、答えがやって来るっていうか。

ようた それでいうと、僕は、石の名前は初めに答えがあるけど、覚えることでも学んでる気がするんだよね。これは「学び」って言える？

にき ようたさんは、疑問をもってる。疑問が来る前に答えが来るとおもしろくないけど、疑問の後に答えが来るとおもしろい。だから「学び」って言えると思います。

全員 おお～。確かに！

ようた この本質観取はいつも学びになるなあって思うんですけど、確かに自分たちの中に問いがあって、その答えを自分たちで見つけ出そうとしますよね。それで生活が豊かになってるなとも思う。

にき さっき失敗から学ぶって話をしましたけど、それも、どうすれば今度は失敗しないかって問いをもつから、やっぱり「学び」なんだなって思います。

たいすけ 「問い」があると必ず何か気づきがあると思います。「学び」は、問いと気づきがあるからこそ「学び」って言うのかなって。

全員 おお～。言えてる！

本質を言葉にしてみよう！

苫野 いや～、いい言葉がたくさん置かれたね。かなり本質に迫れたんじゃないかな。出てきたキーワードを使って、「学びとは○○である」みたいに言えそうかな？

今日のまとめ

学びとは、自分自身の問いと気づきを通して、生活が豊かになっていく営みである。

苫野 どう？ みんな納得感ある？

全員 納得！

どうすれば学校の勉強を 「学び」にできるんだろう？

かなこ 今日、本質観取をやって、学校の勉強が「学び」と思えないのは、自分の問いじゃない問いを与えられているからなんだなって思いました。

ようた 逆にいうと、どうすれば自分の問いにできるかって考えると、学校の勉強も「学び」にできるんだよね。

全員 確かに！

「哲学鍋」とは、みんなの考えをもち寄りぐつぐつ煮込みながら、みんながおいしいと思える味（より本質的な考え）に仕上げていく営みをイメージしたものです。



苫野一徳 ● とまの いっくとく

1980年兵庫県生まれ。熊本大学大学院教育学研究科准教授。専門は哲学、教育学。著書に『愛』（講談社）、『学問としての教育学』（日本評論社）など多数。